

与格代名詞 lui と中性代名詞 y との対立：ajouter, donner の構文を中心に

新田直穂彦
(東北大学大学院)

フランス語に於いて、間接目的補語(OI)が代名詞化されると、与格代名詞(lui)、à+人称代名詞の強勢形(à lui)、中性代名詞(y)のいずれかに置換される。これらの代名詞の内、lui, y の両者に対して共起可能な動詞 ajouter, donner を取りあげ、lui, y との共起関係について考察した。

ajouter の構文では、原則として OI を y で受ける。ただし、直接目的補語(OD)が具体的なものであり、OI を OD の受け手、即ち OI を OD の所有者とみなすことができる場合は、y の他に lui も使用可能になる。一方、donner の構文では、OI を lui で受ける頻度が極めて高い。しかし、donner は y と共起しないわけではない。donner が OD と共に一部の凝結表現を形成する場合、または支持動詞として機能する場合、OI を OD の所有者とみなしにくくなるため、donner は y と共起する可能性が生じる。

以上のことから分かるように、OI の代名詞化に関して、ajouter と donner とは正反対の傾向にある。こうした傾向の違いは、動詞の性質の違いに帰因する。動詞の性質の違いを除外すれば、lui, y の選択基準は常に一定であり、その選択基準は OI の代名詞だけではなく、他の代名詞についても認められる基準であると推測される。